

古代文字資料館では西夏文字が鑄込まれた西夏国の貨幣を幾つか管理している。2004年7月時点で「福聖宝錢」「大安宝錢」「貞觀元宝」「貞觀元宝(行書風)」「乾祐宝錢」「乾祐宝錢(贗作)」「天慶宝錢」の五種七点。本稿ではこの五種七点を紹介する。

以下西夏文字の説明において、李範文編著『夏漢字典』(中国社会科学出版社, 1997年)の文字番号と漢語訳および『今昔文字鏡』の西夏文字フォントを利用する。

1. 「*福聖宝錢」福聖承道年間(1053年～1056年)



径：24.31mm 厚：1.56mm 重量：4.5g 材質：銅

上：2544 𐽳 「聖」

右：2342 𐽲 「福、佑」

下：5655 𐽲 「寶」

左：1604 𐽲 「錢」

羅福萇『西夏国書略説』(1914年)は、当該錢の上を聖、右を福とし、この二字を福聖という漢語にあて、全体を福聖宝錢と読んだ。これは西夏国年号の福聖承道の福聖にあたる。この解説案は聖と福は倒置されているとみる。下と左は、西夏文字 5655「宝」、1604「錢」を崩した字形であろう。ところで、拓影の上と右は、2544「聖」、2342「福」とは字形が異なる。この状況は他の資料でも同様であり、「福聖」以外の解説案が出されることになる。陳炳應「関與西夏錢幣的幾個問題」(『中国錢幣』1989-3, pp.18-23)は、上と右の文字は福聖には見えないとし、漢語としては*稟德宝錢とすべきであるとする。この稟德(德を受け継ぐ)にあたる西夏語は『番漢合時掌中珠』(乙種本二十七丁裏)にも出てくるもので、第一字目が 2748 𐽲「德」、第二字目が 2135 𐽲「稟」(動詞)。確かにこちらのほうが当該の西夏文字錢の字形に近い印象を与える。しかしながら、拓影上字の右側部分と 2748 𐽲の右側部分は明らかに異なる。このような相違を崩し字形に起因するものとするのも不可能ではないけれども、他の西夏文字資料によって実証する必要がある。

2. 「大安宝銭」 大安年間(1075年～1085年)



径：28.37mm 厚：2.00mm 重量：8.8g 材質：銅

上：4456 𠄎 「大」

右：0139 𠄎 「安、泰、利、善、易」

下：5655 𠄎 「寶」

左：1604 𠄎 「錢」

縁が広い大ぶりの貨幣(濶縁大様)。文字部分の摩滅が進んでいるけれども「大安宝銭」として問題はない。

3. 「貞観元宝」 貞観年間(1101年～1113年)



径：26.87mm 厚：1.55mm 重量：4.3g 材質：銅

上：2748 𠄎 「徳、正、貞、平、静」

右：5593 𠄎 「観、瞻、看」(動詞)

下：5655 𠄎 「寶」

左：0856 𠄎 「根本、根源」

この種の西夏文字銭は趙権之「紹介新發現一種西夏文銭」(『泉幣』3,pp.22-23.1940年)において初めて公にされ、*貞観宝銭と読まれた。貞観にあたる上と右、および宝にあたる下に問題はない。問題となるのは左である。この文字につき趙権之(1940;p.23)は、左は通常の「銭」を表わす文字とは全く異なっていると述べ、断定を控えながらも、それを「銭」の異体字とする。その後、この文字は彭信威『中国貨幣史』(上海人民出版社.1958;p.547)により「元」と読まれた。彭氏によると、西夏語としては貞観宝元と並んでいるけれども、それは形容詞が名詞の後にくる西夏語の特徴によるもので、漢語としては貞観元宝と読めるという。近年では、史金波・白濱・呉峰雲『西夏文物』(文物出版社.1988,p.29)が貞観元宝と読むけれども、相変わらず*貞観宝銭とする出版物も少なくない。問題の左の字形は本銭および次ぎの「貞観元宝(行書風)」により、0856 𠄎「根本、根源」であることがわかる。この西夏文字は、『番漢合時掌中珠』(乙種本三十四丁表)の中で、「迴歸本家」という漢語の本家の本に対応する西夏文字として確認することができる。彭信威(1958)は、この0856「根本」を漢語の元にあて、5655(宝)0856(根本)というつながりを元宝と読んだものと想像する。

ところで、五種の西夏文字銭のうち、*福聖宝銭、大安宝銭、乾祐宝銭、天慶宝銭は「5655(宝)1604(銭)」とし、貞観元宝のみ「5655(宝)0856(根本)」とする。それは何故か。西夏国の貞観元宝とほぼ同時期に西夏の隣国で漢字の元宝銭が相次いで鑄造された。すなわち遼の「乾統元宝」と宋の「聖宋元宝」である。宝銭という表現を漢語風の元宝と改めたのは隣国の貨幣と関係があるとみる。この点については吉池孝一「貨幣文字考—西夏銭—」(『東洋哲学研究所紀要』17号,2002,pp.82-94)を参照されたい。

4. 「貞観元宝(行書風)」 貞観年間(1101年～1113年)



径：26.53mm 厚：1.61mm 重量：5.2g 材質：白銅

上：2748 𠄎 「徳、正、貞、平、静」

右：5593 𠄎 「観、瞻、看」(動詞)

下：5655 𠄎 「寶」

左：0856 𠄎 「根本、根源」

拓影右字の右側上部には「宀」があり 5593 𠄎 とは字形の一部が異なる。これは 5593 の異体字であろう。拓影左字の右側部分は行書風の字形となっている。なお X線マイクロアナライザーの定性分析によると本銭の材質は白銅ということになる。主成分は銅、ニッケルで若干の錫を含む。その他アルミニウム、カルシウム、珪素も認めることができる。材質については吉池孝一「西夏文銅牌及び白銅銭の紹介」(『慶谷壽信教授記念中国語学論集』好文出版.2002,pp.221-222)を参照。

5. 「乾祐宝銭」 乾祐年間(1170年～1193年)



径：24.13mm 厚：1.94mm 重量：5.6g 材質：銅

上：3950 𠄎 「天、乾」

右：0645 𠄎 「祐、助」(動詞)

下：5655 𠄎 「寶」

左：1604 𠄎 「銭」

拓影下字の左側部分は摩滅のため確認が困難であるけれども「乾祐宝銭」として問題はない。

6. 「*乾祐宝銭(贋作)」 乾祐年間(1170年～1193年)



径：24.13mm 厚：1.54mm 重量：4.3g 材質：銅

上：3950 天 「天、乾」

右：0645 祐 「祐、助」(動詞)

下：3310 弘 「廣、昊、弘」

左：1604 助 「錢」

先に述べた5の「乾祐宝銭」にくらべ本銭は薄くて軽い。拓影下字はこのまま読むと、5655 弘「寶」ではなく 3310 弘「廣、昊、弘」とせざるをえない。あるいは5655の崩し字形であるかもしれないが確認できない。その形態、文字からみて贋作とおもわれる。

7. 「天慶宝銭」 天慶年間(1194年～1205年)



径：23.87mm 厚：2.00mm 重量：6.0g 材質：銅

上：0510 天 「皇、天」

右：0305 慶 「慶」(動詞)

下：5655 寶 「寶」

左：1604 助 「錢」

「天慶宝銭」として問題はない。